株主のみなさまへ

# 第17期報告書

2014年4月1日～2015年3月31日

株式会社トランスジェニック　証券コード 2342

株式会社トランスジェニック

一人ひとりの健康と豊かな暮らしの実現をめざして

# ご挨拶

## Top Message

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、第17期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、『生物個体からゲノムにいたる生命資源の開発を通して、基盤研究および医学･医療の場に遺伝情報を提供し、その未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する』ことを目指しております。

この企業理念に基づき、当事業年度においても当社およびグループ会社の企業価値を最大限にするために積極的な事業活動を展開した結果、上場以来の赤字を脱却し、黒字体質への転換を図ることができました。これもひとえに、株主の皆様からの長年にわたるご支援の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

当社グループは、M&A戦略に基づく事業規模および領域の拡大を実現した結果、従前からの基盤技術である遺伝子改変マウス作製に係る事業およびトランスジェニックマウスを用いた高親和性抗体の開発･作製事業に加え、遺伝子や分子病理解析の提供、非臨床試験･臨床試験の受託、さらには病理診断と幅広いサービスを研究機関、製薬企業、食品会社などに提供可能な基礎研究･創薬支援プラットホームを構築することができました。

今後、当社グループは、このたびの黒字化に甘んじることなく、この基礎研究･創薬開発に対するトータル支援プラットホームを最大限に活用した、新しい事業モデル構築に積極的に取り組む所存です。

黒字体質転換にともない社員の士気もますます高まる中、昨年5月に公表いたしました中長期経営計画「中長期Vision」に掲げました重点施策を実現すべく全社員一丸となって取り組み、持続的な成長を遂げることにより、企業価値のさらなる向上を実現させる所存です。

株主の皆様におかれましては、当社の取り組みにご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

2015年6月
代表取締役社長　福永健司



# トップインタビュー

## Top Interview



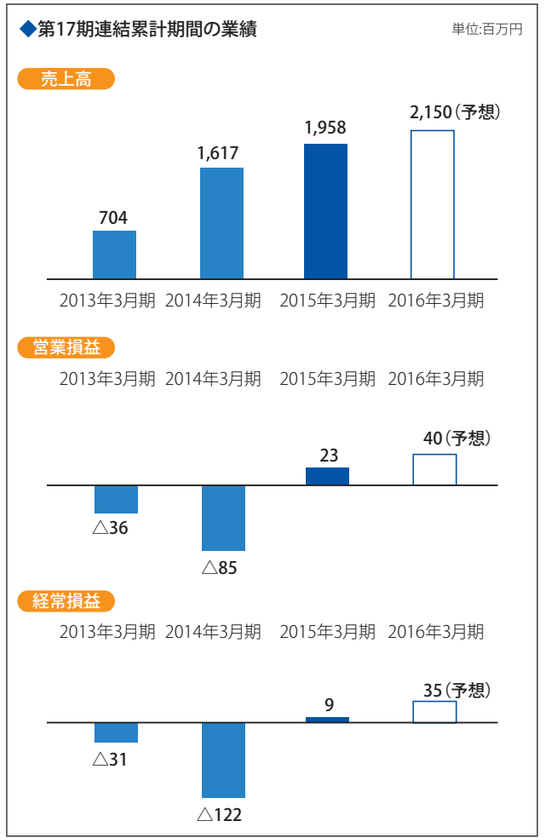
**Q1** 2015年3月期(当期)の業績と評価をお聞かせください。

**A1** 当社グループは、2015年3月期において、2014年3月期にM&A戦略に基づき子会社化した(株)新薬リサーチセンターおよび(株)ジェネティックラボの基盤整備と事業効率化を行い、当社グループ一員として業績に大きく貢献する体制が概ね完了いたしました。

その結果、当連結会計年度における当社グループの業績は、子会社の受注獲得が好調に推移し、売上高1,958百万円(前年同期1,617百万円)と前期比で約21%成長いたしました。損益につきましては、分子解析センター開設のように事業拡大に向けた先行投資等発生しましたが、営業利益23百万円(前年同期営業損失85百万円)と大幅改善いたしました。経常利益につきましても、訴訟関連費用を計上したことから9百万円(前年同期経常損失122百万円)に留まりましたが、対前期比では大幅改善となり、当期純利益につきましても17百万円を確保するこができました。

セグメント別業績状況は、ジェノミクス事業につきましては、遺伝子改変マウス作製受託サービスの受注が好調に推移したことから、売上高296百万円(前年同期280百万円)と増収となりましたが、受注体制強化に伴う先行投資により営業利益は60百万円(前年同期63百万円)と横這いにとどまりました。CRO事業につきましては、(株)新薬リサーチセンターへの事業集約による営業強化を図った結果、売上高799百万円(前年同期670百万円)と大幅増収となり、営業利益につきましても83百万円(前年同期営業損失15百万円)と大幅増益となりました。先端医療事業につきましては、前期8月に子会社化した(株)ジェネティックラボの業績が1年間フルに貢献しましたが、(株)プライミューンにおける試薬販売が不調であったことから、売上高は482百万円(前年同期418百万円)に留まり、営業利益につきましても試薬販売の不調および分子解析センター開設に関わる先行投資により34百万円(前年同期45百万円)と減益となりました。病理診断事業においては、(株)ジェネティックラボの業績が1年間フルに貢献した結果、売上高は396百万円(前年同期251百万円)、営業利益28百万円(前年同期営業損失10百万円)と大幅な増収増益となりました。

以上のように、全体としての売上･利益は、まだまだ少額ですが、神戸研究所における分子解析センター開設のように今後の事業拡大への先行投資などを吸収した上での利益確保を実現したこと等も考慮しますと、概ね順調に推移したと考えております。



## Q2 当期における主な施策についてお聞かせください。

**A2** 当社グループは、2015年3月期において、機動的な経営体制構築を目的として、(株)ジェネティックラボ、(株)プライミューンを完全子会社としました。

また、ジェノミクス事業において「炎症ストレス可視化マウス作製とその応用」に関して国際特許出願、さらに可視化マウスの販促の一環として「可視化マウス研究会」を発足させました。また、効率的に遺伝子改変マウスを作製する技術として注目されているゲノム編集技術(CRISPR/Cas9)および同技術に関わるライセンスを導入する等、新規技術の導入に関して積極的に取組みました。CRO事業においては、(株)新薬リサーチセンターへ事業集約することにより事業効率化を図りました。また、先端医療事業においては将来的な収益確保を目的に一般消費者向け遺伝子解析ビジネスの拠点として神戸研究所内に分子解析センターを開設するとともに、病理診断事業においては、(株)ジェネティックラボが有する高品質な病理診断技術を活かすべく、新規サービスの開始、コンパニオン診断研究へ参画いたしました。

以上のように、収益拡大および将来的な事業展開の布石として、各事業部門の強みを活かした積極的な施策を展開いたしました。

**2014年**

- 4月 ・CRO事業部門の統合
  ・膵がんマーカーによるがん診断に関する独占ライセンス契約締結(中国)
- 5月 ・長期経営Vision2020および中期経営Vision2017の策定
  ・「トラップマウス技術」に関する特許が米国にて成立
  ・(株)ジェネティックラボ、(株)プライミューン完全子会社化
- 6月 ・独立行政法人産業技術総合研究所とのうつ病関連の共同研究契約締結
- 7月 ・「可視化マウス研究会」発足
  ・炎症ストレス可視化マウスに関する特許を出願
- 8月 ・分子解析センター開設
- 9月 ・泌尿器がんマーカーによるがん診断に関する独占ライセンス契約締結(中国)
- 10月 ・聖マリアンナ医科大学河村准教授との血中卵胞機能マーカーに関する共同研究契約締結
- 11月 ・膵がんマーカーに関する特許が米国にて成立

**2015年**

- 4月 ・遺伝子解析事業部門の統合

## Q3 中期経営計画の進捗状況をお聞かせください。

**A3** 2014年5月に公表いたしました「中長期Vision」の進捗状況につきましては、中期経営計画初年度である当期の売上高目標2,000百万円に対して1,958百万円、営業利益目標20百万円に対して23百万円と概ね達成いたしました。次期については、売上高は足元の動向を踏まえ当初目標2,200百万円に対して2,150百万円、営業利益につきましては黒字転換を機にさらなる成長に向けた戦略投資および研究開発を推進予定であることを反映し、当初目標100百万円を40百万円に修正いたしました。

## Q4 2016年3月期の業績の見通しについてお聞かせお話しください。

**A4** 2015年3月期は、「中長期Vision」に掲げたオンリーワンの創薬トータル支援企業へ向けた足固めの年と位置付けてスタートし黒字体質転換を遂げました。2016年3月期は、次なる成長および挑戦への布石を投じるべく、これまで構築してきた創薬支援プラットホームを礎にした戦略投資および成長ドライバー創出のための研究開発を実行予定です。このような背景のもと、売上高2,150百万円、営業利益40百万円を見込んでおります。

## Q5 最後に株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

**A5** 当社グループは基礎研究から創薬開発全般という幅広い領域の開発支援が可能で、かつ特異性が高いグループ会社で構成されております。これまでは基幹事業に関する技術開発導入や新規事業領域進出に際しての先行投資負担により赤字を余儀なくされてきましたが、事業効率化の徹底と投資成果として事業拡大を実現し黒字転換を果たすことができました。

今後、当社グループは、今回の黒字転換を受け、「研究開発型ベンチャー」として、より積極果敢な攻めの経営に転じる所存です。

株主の皆様方にあられましては、引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



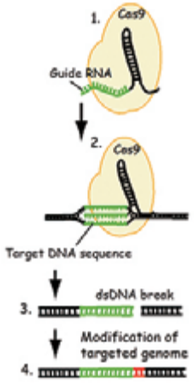


当社は、遺伝子改変マウスのパイオニアとして、遺伝子改変マウスの高い技術力を有するとともに、最新の技術をいち早く導入し、競争力を確立しております。

## 『ゲノム編集技術(CRISPR/Cas9)を用いた遺伝子改変マウス』作製受託サービス

ゲノム編集技術(CRISPR/Cas9)システムは、バクテリアで見つかった獲得免疫機構で、近年、効率的な標的遺伝子組換え/ゲノム編集技術として広く利用されるようになってきています。CRISPR/Cas9システムを用いたゲノムへの変異導入は、極めて高頻度であることから、従来の方法に比べノックアウトマウスの作製期間が約13か月から約9か月に短縮、さらにコスト低減が可能となりました。当社では、米国Broad研究所のCRISPR/Cas9に関する特許群の日本国内実施許諾を受け、CRISPR/Cas9による遺伝子改変マウスの作製受託サービスを提供しています。

### CRISPR/Cas9とは




CRISPR/Cas9システムは、Cas9タンパク質とguide RNAから構成され、guide RNAの中の標的配列に相補的な20merの配列が特異性を決めます。

Cas9が導入された受精卵(あるいは、細胞)では、guide RNAにより認識された標的遺伝子の配列が二重鎖切断(dsDNA break)されます。

その切断部位が修復される過程で、塩基配列の欠失・挿入といった変異がゲノム上に導入されます。
ドナーとなるDNA存在下では、相同組換えにより修復されます。

塩基配列の欠失・挿入では、フレームシフトによる標的遺伝子の破壊が起こります。
また、相同組換えでは任意の変異導入が可能です。

## モデルマウス 当社は、ライセンス許諾を受けて大学や研究機関で樹立された遺伝子改変マウスを販売しています。

### 病態可視化マウスシリーズ

病態可視化マウスは、ルシフェレースの発光反応を利用して、種々の病態を生体で可視化可能としたモデルマウスです。当社では下記のようなラインアップをそろえ、病態の解明や創薬研究ツールとして提供しています。

**●小胞体ストレス可視化マウス**

**酸化ストレスは、体内の酸化反応が亢進し、生体成分が変性、細胞機能障害を引き起こします。動脈硬化、糖尿病、リウマチ等の研究への活用が期待されます。**

**●酸化ストレス可視化マウス**

**酸化ストレスは、体内の酸化反応が亢進し、生体成分が変性、細胞機能障害を引き起こします。動脈硬化、糖尿病、リウマチ等の研究への活用が期待されます。**

**●炎症可視化マウス**

**慢性炎症は、自己免疫疾患、がん、動脈硬化、肥満、アルツハイマー等の病因になります。暗証可視化マウスは、炎症マーカーであるIL-1βを可視化することから、汎用性が高く、幅広い研究における活用が期待されます。**

### 乳がんモデルマウス

乳がんモデルマウスは、乳腺腫瘍を発症するモデルマウスです。乳がん発症のメカニズムおよび治療法の研究に貢献すると期待されています。

### 肥満抑制モデルマウス

肥満抑制モデルマウスは、当社独自技術のジーントラップ法で樹立されたマウスです。体重減少および血糖値減少を特徴としており、代謝系疾患の研究に貢献することが期待されます。

### 夜型モデルマウス

夜型モデルマウスは、体内時計関連遺伝子の変異マウスです。日周期リズムの異常メカニズムの解明等に貢献すると期待されています。

# 事業紹介
Our Business

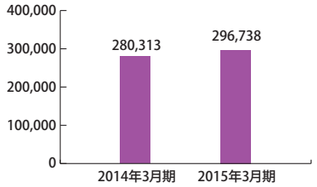
## ジェノミクス事業

**当期概要**
- 遺伝子改変マウス作製受託が堅調に推移し増収(前期比105.9%)
- 受注強化のための営業費用の増加により営業利益は微減
- 積極的な新規技術導入、モデルマウス販売促進に向けた研究開発の実施

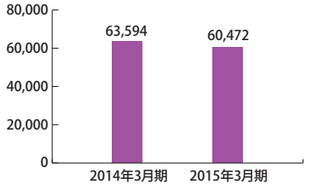
ジェノミクス事業においては、コンベンショナルノックアウトマウス、コンディショナルノックアウトマウス、ノックインマウス、トランスジェニックマウスなどの遺伝子改変マウスの作製受託のパイオニアとして市場を牽引し、実績と信頼を蓄積し、最新技術導入により、作製期間の短縮、高い成功率を実現しています。さらに、新しい研究ツールとして、各種病態可視化マウスなどの有用なモデルマウスの提供を行っています。また、CRO事業との連携により、GLP施設での遺伝子改変マウスを用いた非臨床試験受託も可能であり、当社独自のサービスとして優位性を図っています。研究開発の一環として、遺伝子改変マウス作製技術を基盤技術とし、組織・臓器レベルでのヒト化マウスの研究開発に取り組んでいます。

ジェノミクス事業は、創薬プロセスにおける、標的分子探索および標的分子の同定の支援を行っています。

売上高 (単位:千円)




営業利益 (単位:千円)




## CRO事業

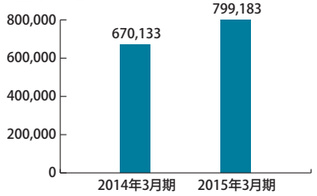
**当期概要**
- 受注獲得が堅調に推移し、売上高大幅増収 (前期比119.3%)
- 事業集約による営業効率化が奏功し大幅増益し、黒字転換
- グループ各事業との連携強化、収益モデルの確立と利益確保

CRO事業においては、GLPおよびGCP遵守の受託研究機関として、小動物、遺伝子改変マウスを用いて幅広い薬効薬理試験、安全性薬理試験、薬物動態試験などの非臨床試験受託を行うとともに、霊長類を用いた非臨床試験受託も行い、幅広く顧客ニーズに対応しています。

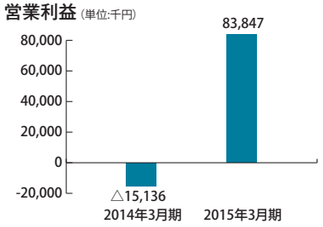
薬効薬理試験においては、各種動物を用いて病態モデルを作製し、医薬品、ジェネリック医薬品の生物学的同等性試験、医療機器、特定保健用食品の評価等の評価を実施しています。霊長類を用いた安全性薬理試験、各種動物を用いた薬物動態試験など、長年の実績に裏打ちされた高品質な多種多様な非臨床試験受託を取り揃え、高いコンサルティング力により、顧客へベストソリューションを提供することで評価されています。

CRO事業は、創薬プロセスにおける、リード化合物の探索と最適化、非臨床試験、臨床試験の支援を行っています。

売上高 (単位:千円)




営業利益 (単位:千円)



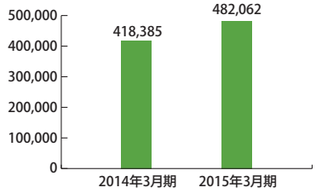
## 先端医療事業

**当期概要**
- (株)ジェネティックラボ通期貢献により売上高増収 (前期比115.2%)
- 分子解析センター開設に伴う費用の発生・試薬販売不調により減益
- 遺伝子検査ビジネス開始、分子病理受託営業に注力

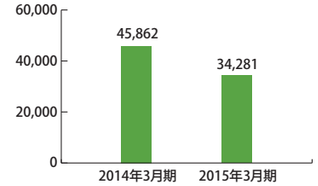
先端医療事業においては、GANP®マウス技術を基盤とした高親和性・高特異性モノクローナル抗体作製をはじめとするタンパク関連受託、試薬販売、遺伝子発現解析、タンパク質構造解析等の各種解析受託を行っています。提供するサービスはアカデミア研究機関、製薬メーカー、海外メガファーマからもその技術力を高く評価されています。また、外部研究機関と共同で各種がんマーカー、メタボリックシンドロームなどの診断薬シーズの研究開発にも取り組み、これら有用シーズは中国企業との連携により、中国での診断薬上市を目指して展開しています。さらに、臨床検体の解析、測定サービスと臨床試験領域へのサービス提供も行っています。

先端医療事業は、創薬プロセスにおける、標的分子の同定、臨床試験の支援を行っています。

売上高 (単位:千円)




営業利益 (単位:千円)



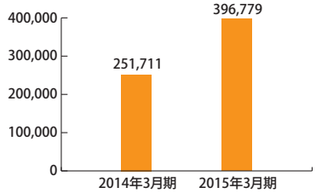

## 病理診断事業

**当期概要**
- 当期トピックス売上高は、順調に推移し大幅増収
- 営業利益は、固定費等の効率化により大幅増益し黒字転換
- 新規サービスを開始し、収益拡大を図る

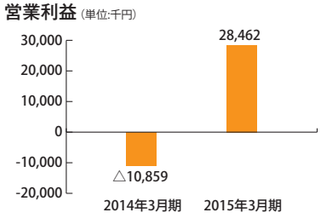
病理診断事業においては、経験豊かな認定病理医による質の高い病理組織診断、乳がんや胃がんのバイオマーカーを用いた解析、組織アレイ作製、特異抗体を用いた免疫染色・FISH法による分子の可視化技術や定量評価など、臨床における病理診断を行っています。将来的に、個別化医療の中心となるがん領域、炎症性疾患領域において豊富な病理診断実績を有し、遺伝子解析との技術融合による試験受託は製薬企業ニーズに応えるもので、個別化医療関連の創薬における優位性を有しています。

病理診断事業は、創薬プロセスにおける、臨床試験の支援を行っています。

売上高 (単位:千円)




営業利益 (単位:千円)



# 研究開発戦略

R&D

株式会社トランスジェニック

## ◆研究開発方針

基礎研究支援から、臨床試験支援まで事業を拡大し、収益基盤の確立を目指すという目標はほぼ達成しました。研究開発の次の目標は、拡大した各事業間の連携による既存事業のさらなる強化と新規事業の展開です。有用な新規技術および新規モデルマウスの開発および導入、そのモデルのCROへの展開、新規技術を用いた事業展開、診断薬シーズ探索の拡充のため、熊本大学、群馬大学、東京大学、産業技術総合研究所等との共同研究を展開し、将来的な収益化につながるプロジェクトに経営資源を投入します。

## ◆研究開発トピックス

契約関連　特許　製品・サービス　学会　その他

| | |
|---|---|
| 4月 | 膵がんマーカーによるがん診断に関する独占ライセンス契約締結（中国） |
| | 生活習慣病バイオマーカー測定サービスを開始 |
| 5月 | 「トラップマウス技術」に関する特許が米国で成立 |
| 6月 | 独立行政法人産業技術総合研究所とのうつ病関連の共同研究契約締結 |
| | 原発性アルドステロン症研究用抗ヒトHSD3B2モノクローナル抗体の発売 |
| 7月 | 「可視化マウス研究会」発足 |
| | 炎症ストレス可視化マウスに関する特許を出願 |
| 8月 | 分子解析センター開設 |
| 9月 | 泌尿器がんマーカーによるがん診断に関する独占ライセンス契約締結（中国） |
| | 第56回歯科基礎医学会学術大会にてランチョンセミナー開催 |
| 10月 | 聖マリアンナ医科大学河村准教授との血中卵胞機能マーカーに関する共同研究契約締結 |
| 11月 | 第37回日本分子生物学会年会に出展 |
| 1月 | 第1回可視化マウス研究会を開催 |



# 技術トピックス

New Technology

株式会社トランスジェニック

## ◆研究開発パイプラインの進捗状況

当社は、3つの研究開発パイプラインを進めてきています。

**1.遺伝子改変マウスの作製技術**

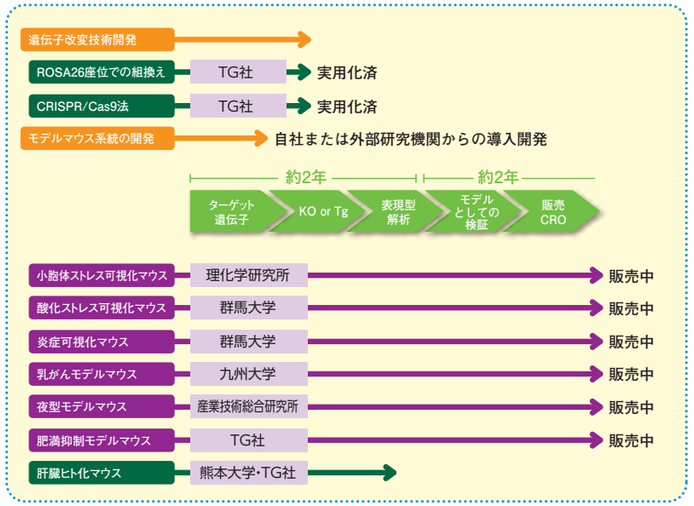
可変型遺伝子トラップ法を契機として、その後はES細胞を用いた相同組換え技術、遺伝子導入マウス作製技術の効率化を達成してきました。最近は、ROSA26座位での組換え技術、そしてCRISPR/Cas9法も実用化しています。新規技術の開発に積極的に取り組んでいます。

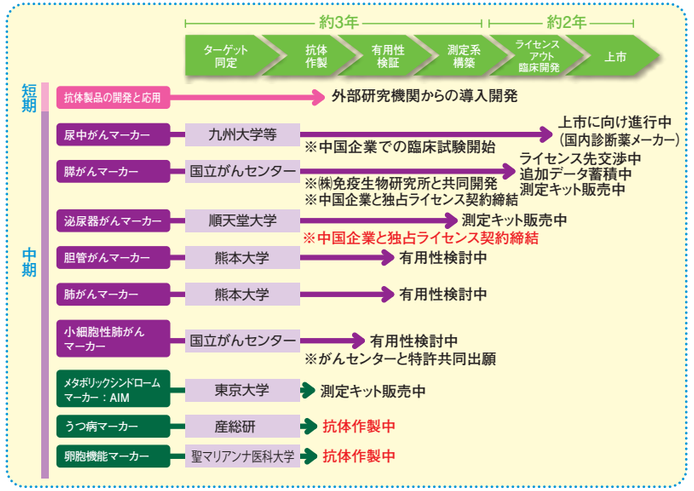
**2.モデルマウス系統の開発**

大学等の研究機関で作製された、あるいは共同研究等により作製されたモデルマウスを積極的に導入しています。その結果、これまでに、病態可視化マウス、がん等の疾患モデルマウスの販売を開始しています。また、モデルマウスの販売にとどまることなく、将来のCRO事業への展開を見据えたモデルマウスにも重点を置き、特に肝臓ヒト化マウスの開発も行っております。

**3.抗体製品の開発と応用**

GANP®マウス技術を用いて作製した抗体や外部研究機関から導入した様々なシーズをバイオマーカーとして診断薬へ展開するよう研究開発を進めております。バイオマーカー開発パイプラインの充実を図ることで、抗体事業のブランド力を高めてまいります。



# 知的財産戦略



## Intellectual Property Report

〈知的財産戦略の方針〉

当社は、探索研究をしている製薬企業や疾病解明に取り組む研究者へ、有益な研究ツール、知的財産を提供することにより、創薬、病態の解明に貢献したいと考えております。

また、当社は、大学･研究機関等との共同研究を積極的に行い、当社事業とシナジー効果が発揮でき得る技術を、研究開発の早期段階において導入することに努めております。研究開発の早期段階での技術導入により、その技術が公開される前に確実な知的財産権を確保するとともに、豊富な実験データに裏付けられた強い特許、将来のマーケティングを見据えた特許網を構築すべく、研究開発、事業戦略と融合させた特許戦略を展開しております。さらに、導入した技術を付加価値の高い技術や知的財産に育て、これらの技術から生まれた独自性の強い製品･サービスを提供するとともに、知的財産、技術情報のライセンスビジネスを展開しております。知的財産のライセンスについては、製薬メーカーなどの開発･事業のステージにあわせたマイルストンを設定することにより、戦略的な知的財産の活用に努めております。

〈特許･ライセンスの事業への貢献〉

当社特許の事業への貢献度は高く、当社は保有特許の極めて高い実施率を保っております。また、積極的なライセンスイン、ライセンスアウトを通じて、直接的な収入の増加のみならず、事業の優位性を図り、将来を見据えた中長期的な知的財産戦略を実行しております。

〈リスク対応情報〉

2015年3月末時点において、当社に対する特許訴訟やクレームはありません。当社は、自社技術が他社の特許侵害に当たらぬよう、リスクマネジメントに努めております。

### ◆主な特許成立マップ

トランスジェニックの特許群は、トラップ技術関連、GANP®マウス技術関連、腫瘍マーカーなどが事業の根幹となっています。これらの知的財産をもとに、国内外の複数の企業とライセンス契約を積極的に進めてまいります。

| | |
|---|---|
| トラップ法関連特許 | 日本、米国、欧州、豪州、中国、香港 |
| 尿中がんマーカー関連特許 | 日本、米国 |
| 膵がんマーカー特許 | 日本、米国 |
| GANP®タンパク質特許 | 日本、米国、カナダ |
| GANP®マウス関連特許 | 日本、米国、欧州、豪州、中国、韓国、香港 |

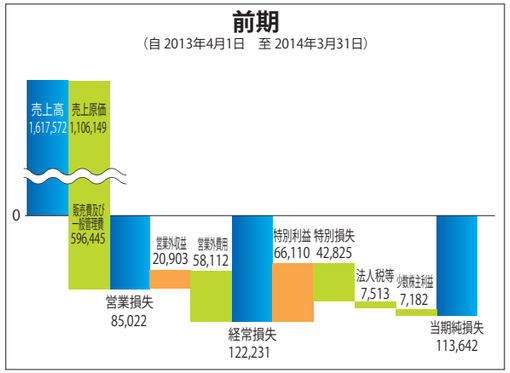
# 連結財務情報

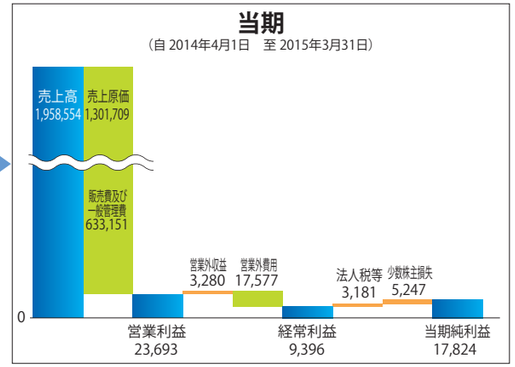


## Financial Information

### 損益計算書より

（単位:千円）



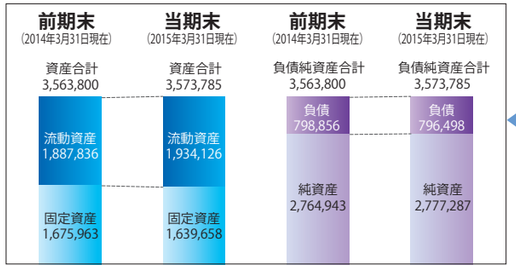




**Point 1**

当期の売上高は1,958,554千円（前期1,617,572千円）、営業利益は23,693千円（前期は営業損失85,022千円）となりました。また、訴訟関連費用を営業外費用として計上したことにより、経常利益は9,396千円（前期は経常損失122,231千円）となり、さらに連結決算の黒字化を受けて繰延税金資産を計上した結果、当期純利益は17,824千円（前期は当期純損失113,642千円）となりました。

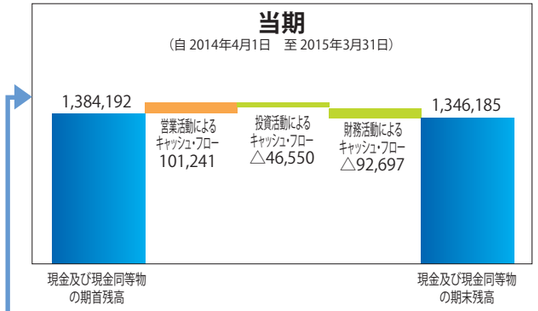
### 貸借対照表より

（単位:千円）




### キャッシュ･フロー計算書より

（単位:千円）




**Point 2**

当期末は、純資産が資本剰余金の増加などにより2,777,287千円（前期比12,343千円増加）となり、総資産は3,573,785千円（同9,985千円増加）となりました。

**Point 3**

営業活動によるキャッシュ・フローは、101,241千円（前年同期△141,502千円）となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは△46,550千円（同△174,871千円）となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは△92,697千円（同371,304千円）となりました。その結果、当期末における現金及び現金同等物は、前期末比38,006千円減少し、1,346,185千円となりました。

## 会社概要 2015年3月31日現在

会　社　名　株式会社トランスジェニック
設　　立　1998年4月
資　本　金　2,550百万円
従業員数　36名（単体）132名（グループ）
事　業　所

本　　社　熊本県熊本市中央区九品寺二丁目1番24号
福岡オフィス　福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号
神戸研究所　兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番地14
東京オフィス　東京都港区虎ノ門二丁目7番5号

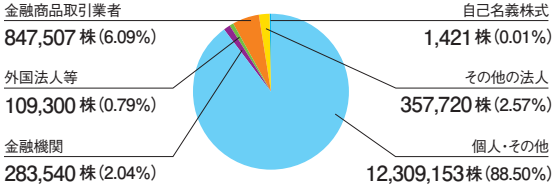
## 株式の状況 2015年3月31日現在

発行可能株式総数　43,630,100株
発行済株式の総数　13,908,641株
株　　主　　数　11,405名

### 大株主の状況

| 株主名 | 持株数（株） | 持株比率（%） |
|---|---|---|
| 日本証券金融株式会社 | 281,300 | 2.02 |
| 松井証券株式会社 | 173,200 | 1.24 |
| 株式会社ムトウ | 160,200 | 1.15 |
| 野村證券株式会社 | 143,500 | 1.03 |
| 株式会社SBI証券 | 132,000 | 0.94 |
| 上永　智臣 | 106,600 | 0.76 |
| 原田　育生 | 97,000 | 0.69 |
| 日置　正人 | 91,700 | 0.65 |
| 楽天証券株式会社 | 83,500 | 0.60 |
| 佐賀　芳行 | 80,000 | 0.57 |

### 所有者別株主分布状況




役　　員

代表取締役社長　福永　健司
取　締　役　山村　研一
取　締　役　坂本　珠美
取　締　役　船橋　泰
取　締　役　清藤　勉
常勤監査役　鳥巣　宣明
監　査　役　遠藤　了
監　査　役　佐藤　貴夫

## 株主メモ

| | |
|---|---|
| 証券コード | 2342 |
| 上場市場 | 東京証券取引所　マザーズ |
| 上場年月日 | 2002年12月10日 |
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 定時株主総会・期末配当　毎年3月31日<br>中間配当　毎年9月30日 |
| 株主名簿管理人<br>特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部<br>〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号<br>TEL：0120-232-711（通話料無料） |
| 公告方法 | 電子公告（当社ホームページに掲載）<br>※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 |

## IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。
ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

http://www.transgenic.co.jp/

当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております。

ir@transgenic.co.jp

Trans Genic Inc.